

市民まちづくりワークショップについて

1. 概要

第6次長期総合計画策定に係る市民参加の一環として、将来の塩竈での暮らしを考える、「未来の100の暮らしワークショップ」を実施したものです。

回	開催日	テーマ	参加者数
第1回	R2.10.24	住環境「暮らし方、塩竈の好き・嫌い」	22名
第2回	R2.11.26	子育て・教育「多世代で守られ、愛され、慈しまれる子どもの暮らし」	26名
第3回	R2.12.17	食・産業「二十四節気の港暮らし」	14名
第4回	R3.1.14	福祉「100歳まで生き生き暮らす」	20名
第5回	R3.1.28	歴史・文化「趣がます塩竈の暮らし」	18名
第6回	R3.3.18	編集会議	17名

延べ参加者数：117名、申込者数：37名

2. ワークショップの内容

第1回～第5回では、各回のテーマにつながる暮らしのアイデアの提案と暮らしのカードの作成をグループごとに行いました。合わせて140以上の暮らしのアイデアが生まれ、第6回目の編集会議では、「できている暮らし」と「できていない暮らし」の評価を行い、参加者の投票により「100の暮らし」にまとめました。



↑参加された方々から様々な「未来の暮らし」を提案いただきました。また、イラストレーターの方が「未来の暮らし」のイラストをその場で描き、「暮らしのカード」を作成しました。

↑第6回編集会議での100の暮らしへのまとめ作業



ワークショップ当日に作成した「暮らしのカード」の一例



塩 竈 市

未来の100の暮らし ワークショップ



暮らしの
カード



はじめに

自身の考えと他の人の考えから未来を考える「未来の100の暮らしワークショップ」。全6回の話し合いから塩竈の100の暮らしが生まれました。この冊子では、生まれた100のカードをまとめています。

話し合いは、「塩竈が塩竈らしくここでしかなし得ないかたちで続いていくこと」を念頭に、第6次長期総合計画に関わる未来を考える会として開催しました。各回を振り返ると、第1回住環境、第2回子育て・教育、第3回食・産業、第4回福祉、第5回歴史・文化、第6回編集会議と様々な観点から話し合いを行い、その結果140以上の「暮らしの」アイデアが生まれました。それを最終的に「100」にまとめています。

最終回の編集会議に行った「現在値」を知ることによって、100の暮らしのうち約70の暮らしは、半分以上の人がどちらかというところ「できていない」暮らしと考えているものでした。つまり、多くのアイデアがこれから生み出すことが求められるものになります。一方で、数は少ないですが約10の暮らしは8割以上の人「できている」と考えているものでした。それは、地域にとっての「日常」であると考えられます。その代表格は「鹽竈神社からの風景を眺める暮らし」や「塩竈で水揚げされた魚介を仲卸市場で選ぶ暮らし」です。こうした塩竈でしか味わえない素晴らしい「暮らし」を育み続けることで、「未来の100の暮らし」がこれからの塩竈にとって価値あるものになると幸いです。

ご参加、ご協力いただいた皆さまに厚く御礼を申し上げます。

塩竈市 未来の100の暮らしワークショップ

<ワークショップ開催概要>

回	年 月 日	テーマ
第1回	2020/10/24(土)	住環境 「暮らし方、塩竈の好き・嫌い」
第2回	2020/11/26(木)	子育て・教育 「多世代で守られ、愛され、慈しまれる子どもの暮らし」
第3回	2020/12/17(木)	食・産業 「二十四節気の港暮らし」
第4回	2021/ 1/14(木)	福祉 「100歳まで生き生き暮らす」
第5回	2021/ 1/28(木)	歴史・文化 「趣がます塩竈の暮らし」
第6回	2021/ 3/18(木)	編集会議 「100の暮らし」を整える



運動部の学生が坂道でトレーニングする暮らし

夕方になると、急な坂道を利用してトレーニングをする学生たちの仲間を励ます声が響く。毎年このまちからは、鍛えた脚力を武器に全国で活躍する選手が現れる。

取組

坂道で部活
ドライバーのマナーの改善



祖父母が孫に手を引かれて坂道を登る暮らし

小さな子が祖父母の手を引いて歩く。足腰自慢の祖父母も「孫にはもう負けるね」と笑う。坂道の途中の茶店に孫と寄るのも楽しみ。道を走る車は歩行者優先を徹底している。

取組

坂の途中にベンチを設置 | 高齢者の健康相談でウォーキング指導
ドライバーのマナーの改善



空き家を生かす暮らし

まちなかに残る古い住居はきれいにリフォームされ、子育て中の夫婦が住んでいる。近くの商店におつかいに走る子どもたちの姿が日常的に見られる。

取組

空き家の把握・改修 | 街並み整備のルールづくり
子育て世帯の定住促進



初詣やお祭りの日に屋台で食べ歩く暮らし

大晦日や元日、神社の祭りの日には、裏坂周辺に並ぶ食べ物や遊戯などの屋台でお祝い・お祭り気分を満喫。一帯は親子連れや仲間と集まった小中高生らで賑わっている。

取組

家族・友達と祭りにでかける
地元商店や有志グループが出店



町内会の盆踊りで子どもたちが跳ね躍る暮らし

各町内会では住民の手による夏祭りが毎年開催される。当日はお神輿や盆踊りに子どもたちが元気に参加するので、運営にあたる親世代や祖父母世代にも活気が生まれる。

取組

祭りやイベントへの参加
子育て世帯の定住促進

町内会・自治会の活性化

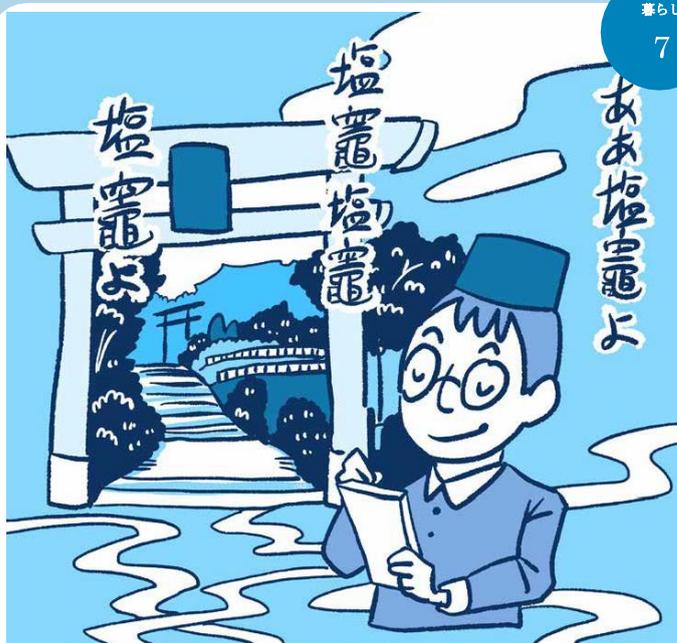


地域のみんで たるみこしを作り、町内へ繰り出す暮らし

ある地区では毎年、地域住民が集まってたるみこしを作る。作り方はシニア世代から若者、子どもたちへ受け継がれていく。ほかの地区でも、それぞれに、多世代が交流できるさまざまな慣習が根付いている。

取組

地域住民が同じことに取り組む
町内会・自治会の活性化



地域のサークル活動で生きがいを感じる暮らし

各町内会では俳句、写真、園芸、ソフトボールなど、さまざまなサークルが活発に活動していて、住民の生きがいになるとともに、地域内外の住民同士の交流の場になっている。

取組

町内会・自治会の活性化
サークル活動への参加



放課後、子どもたちの笑い声が響く暮らし

放課後になると近所の公園や空き地に子どもたちが集まり、子どもだけの世界をつくって遊んでいる。近くを通る住民やお巡りさんが子どもたちの様子を見守る。

取組

公園の整備
防犯体制の充実



おいしい水がある暮らし

水道から流れる良質な水を使って、自宅でおいしい食事。乾いた喉を水道水で潤す市民や、水を大切に使う市民が多くなった。

取組 水道水の水質維持
水道事業の安定的な運営



海が近くにある暮らし

海にはいつも、犬と散歩する人や釣りを楽しむ人の姿が見られる。海の水も年々きれいになってきた。湾内に形成された干潟では子どもたちが魚やカニを見つけて歓声をあげる。

取組 親水空間や遊歩道の整備 | 海辺のゴミ拾い
水質維持のための研究



鹽竈神社からの風景を眺める暮らし

気分転換に、鹽竈神社から千賀の浦(塩釜湾)の風景を眺める。神社にはほかにも、鹽竈神社博物館屋上からの風景や表参道を見上げる構図など、市民に人気の景観がある。

取組 景色を眺めに神社に行く
神社からの景観保全



鹽竈神社に見守られながら、 鹽竈神社を見守る暮らし

多くの市民が常に鹽竈神社の加護を感じ、初詣、結婚、七五三、合格祈願などの節目にはお詣りに訪れる。神社の営みや環境を維持するのも市民の力によるところが大きい。

取組 景色を眺めに神社に行く | 神社からの景観保全
眺望景観の保全ルールへの遵守



浦戸に住んで漁師を目指す暮らし

漁師を志す人が浦戸に長期滞在しながら漁師の指導を受け、技術の習得と独立を目指す。その活動を支援するしくみがあり、地元漁師も後継者育成のために協力を惜しまない。

取組

漁師を目指して学ぶ
就業サポート体制の整備

| 漁師の技術を伝承する仕組みづくり

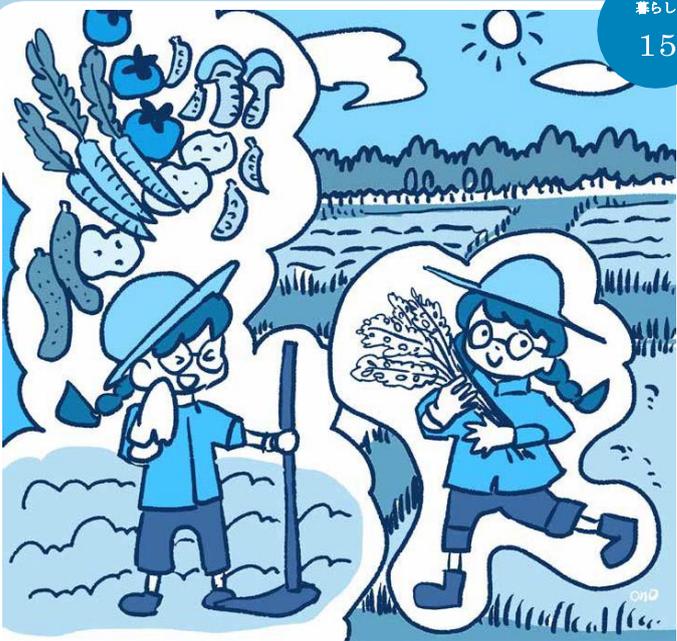


校庭で凧揚げをする暮らし

正月、学校の校庭には凧揚げの子どもたちの姿が見られる。腕に覚えのある近所の大人たちが、凧の作り方や揚げ方のコツを教えながら子どもたちの遊びを見守っている。

取組

凧を揚げる
校庭の安全確保



浦戸で農作物を収穫できる暮らし

島に農地を借りて好きな野菜を植え、週末には草取りや水やりに行く。収穫の楽しみを味わえるだけでなく、屋外での作業で体力がついた。丁寧に管理された松林ではマツタケも採れる。

取組

市民農園の整備
松林の維持管理



夏にカブトムシを見つける暮らし

夏、丘の上の公園ではカブトムシを見つけた子どもたちが歓声をあげる。木々が茂る場所は市内に多くあり、時には住宅地の公園でカブトムシが見られることも。

取組

カブトムシを採りに行く | 公園の整備
自然環境の保全



地域誌・ミニコミ紙で 地域の情報を得られる暮らし

地域の個人や団体が発行する小メディアから、地域の情報を得る。投稿など紙面（誌面）上への読者参加も活発で地域メディアが文化交流の場となっている。

取組

地域誌発行者の活躍
地域誌・ミニコミ紙を読む



近所に行きつけの店がある暮らし

地域には個人経営のさまざまな店があるので、たいていの買い物は徒歩圏内で済ませている。店主も客も同じ地域の住民。毎日の買い物の中でコミュニケーションが交わされ信頼関係が育まれている。

取組

地元商店での買い物 | 小規模店舗の支援
地元ニーズの把握



みんなが休む日がある暮らし

地域の商店がすべて休みの日があり、誰もがのんびり暮らす。地域の祭りやイベントは休みの日に開催され、店主や地域の子どもたちが参加して賑やかになる。

取組

祭りやイベントへの参加
各地域の企画に対するサポート体制



漁師や農家・林業家の仕事に肌で触れる暮らし

市内や近隣市町の漁師、農家、林業家の協力を得て、漁業・農林業体験をする。近隣市町との連携によって、子どもたちは地域の産業について幅広く知ることができる。

取組

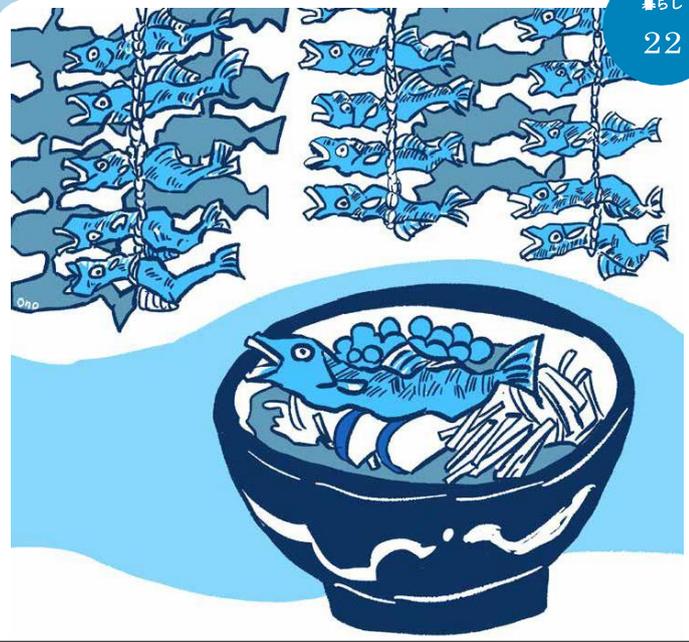
農林漁業を体験する | 一次産業の振興
近隣市町との連携



読み聞かせで絵本に親しむ暮らし

小さい子どもが公民館や図書館に行くと、スタッフや保護者、ボランティアの中高生などが絵本の読み聞かせをしてくれる。塩竈の民話をもとにした紙芝居を鑑賞できる日もある。

取組 図書館で司書と話す
ボランティアの育成



自分で釣ったハゼで正月の雑煮を作る暮らし

正月の雑煮のダシを「焼きハゼ」で取る家庭が多い。秋になると、各家庭ではハゼを焼いて干す光景が見られる。ハゼは自分で釣って、たくさん釣れたら近所におすそ分けする。

取組 ハゼを釣って焼いて干す | ハゼ出汁の雑煮を食べる
ハゼ出汁の雑煮の普及啓発



魚市場で干物作りを体験する暮らし

魚市場の調理室で定期的開催される市民向け料理教室で、市内の加工業者が講師となって旬の魚介を使った料理を作る。魚市場職員の案内でセリを見学し、流通についても学ぶ。

取組 魚市場の料理教室に参加する | 市場と業者の協働体制の強化
魚食普及策の強化



桜味のスイーツを味わう暮らし

市内の菓子店が共同開発した桜味のスイーツが塩竈の新名物となり、市民にとって春を待つ楽しみが一つ増えた。市内でしか買えないため、市外に住む友人に自慢げに送るのも楽しむ。

取組 市内でスイーツを買って食べる、送る
市内菓子店の連携強化 | 名物スイーツの開発



鹽竈神社の桜を愛でる暮らし

桜の花を眺めながら鹽竈神社を歩く。国の天然記念物シオガマザクラをはじめさまざまな種類の桜があるので長い期間花を楽しめる。境内の茶店で団子を食べるのも楽しみ。

取組 神社の桜の種類を覚える
神社の桜の保全



地区の新年会や忘年会で子どもたちと歌う暮らし

新年会、忘年会、敬老会など、町内会のイベントで住民らの交流が深まっている。毎回、地域の子どもの合唱は大人たちの一番の楽しみ。大人たちも一緒になって歌う。

取組 町内会活動に子どもたちの活躍の場を設ける



初デートで本町を歩く暮らし

初めてのデートで本町を歩き、少し背伸びをしてシックなカフェでケーキを食べる。初々しい2人をカフェ店主もまちの人もあたたかく見守っている。次のデートでは浦戸に行こうと約束をする。

取組 本町でデートする
街並みの美化



門前町の風情を感じる暮らし

鹽竈神社周辺では古い建物が店舗などとして活用され、門前町の風情がたどよう街並みが形成されている。御釜神社や道端のベンチには談笑する人の姿が見られる。

取組 古い建物の歴史的価値を整理・発信 | 観光ガイドの育成
街並みの美化 | 保存活用に関わる主体への支援



浦戸の菜の花を活かす暮らし

浦戸に広がる菜の花畑はウォーキングコースとして人気。島のカフェでは菜の花のハチミツを使ったスイーツや菜の花の漬物を味わえる。春に島の民宿に泊まると食事は菜の花づくし。

取組

菜の花畑を歩く | 菜の花を栽培
一次産業の振興



「食」をテーマにした 祭りで近隣市町と交流する暮らし

年に数回、魚市場や仲卸市場、神社周辺などで食をテーマにした祭りが開かれる。近隣市町でとれた野菜や米、果物などの作物のほか、各地域の名物料理が集まり、広域的な交流の場となる。

取組

祭りで市内外の地場食材を食べる、買う
近隣市町との交流を強化



浦戸で働きながら余暇を楽しむ暮らし

浦戸に宿泊しながらパソコンで仕事。仲間との打ち合わせや営業先との交渉もオンラインでできる。仙台や東京からワーケーションで来ている人も多い。

取組

空き家の改修補助
浦戸のインターネット環境の整備

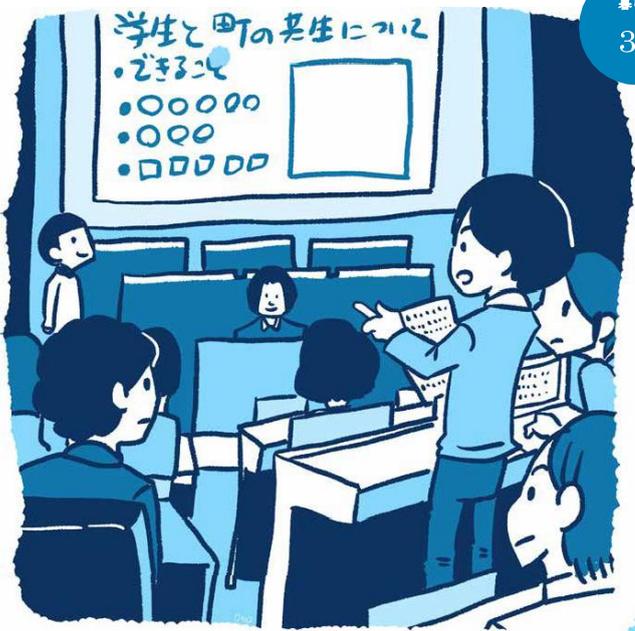


海が見える公園でバーベキューを楽しむ暮らし

海が見える公園で、家族でバーベキュー。お腹がいっぱいになったら、芝生を走り回る子どもたちを見守りながら、パパとママはゆっくりと時間を過ごす。

取組

バーベキュー広場のある公園の整備
管理システムの確立



子どもたちがまちの未来を話し合う暮らし

地域や学校などで、まちの現状や未来について子どもたちが意見を言う機会がある。子どもたちは意見を言うためにまちのことを学び、大人は子どもたちの考えを知ることができる。

取組 まちのことを知る | 郷土学習の推進
意見を交わす場の設定



体験を通じて塩竈の良さを知る暮らし

子どもたちが塩竈の文化、産業、職業などの体験を通して学べる場がある。さまざまな職業・立場の人が場の運営に関わり、職業・世代を超えた交流が生まれている。

取組 いろいろな職業を体験する
職業体験機会の設定



海の恵みに感謝して大漁旗を掲げる暮らし

1年に1回、海の恵みに感謝する祭りが開かれる。港や市場には大漁旗が翻り、市民は海産物をお腹いっぱい食べる。地元酒蔵による振る舞い酒を楽しみにしている人も多い。

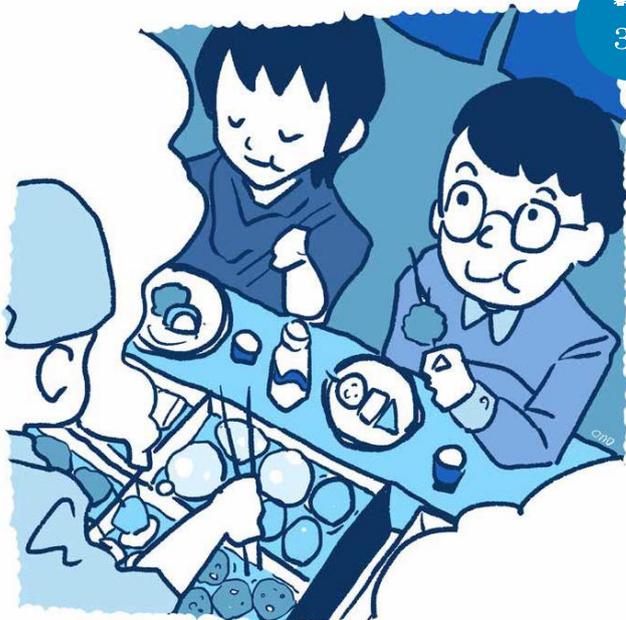
取組 お祭りを企画・運営する | 日頃から海産物を食べる
酒蔵による振る舞い酒



船で行われるパーティーに参加する暮らし

松島湾を遊覧する船上でパーティーが催される。参加者は景色を眺めつつ、海産物やお酒など塩竈の味を楽しみながら会話を弾ませる。仕事や恋愛のパートナーに出会う人も多い。

取組 船上パーティーを催行
船上パーティーに参加



地元産かまぼこを使った 「塩籠流おでん」を楽しむ暮らし

市内の食品加工業者が知恵を出し合って完成した「塩籠流おでん」が、地元の味として定着した。市内の飲食店でおでんを注文すると「塩籠流おでん」が出てくるのが普通。

取組 「塩籠流おでん」の完成 | 「塩籠流おでん」を食べる
食品加工業者の協力関係の構築



いいことがあると寿司で祝う暮らし

誕生日や結婚記念日など、お祝い事では寿司を食べる家庭が多い。寿司店はお祝い用の華やかな盛り付けを工夫している。地域の祭りでは長い鉄火巻きをみんなで作って楽しむ。

取組 祝い事で寿司を食べる
寿司メニューの検討



家族で毎日 「しおがま100歳体操」を続ける暮らし

市民有志が専門家の助言を受け、子どもも高齢者も一緒に取り組める楽しい体操を考案した。効果的に健康増進を図れるだけでなく、家族で取り組むことで互いの健康観察にも役立つ。

取組 家族や仲間と体操する
しおがま体操の考案



「買出しツアー」で 商店街に買い物に行く暮らし

週に2〜3回、近隣住民同士が1台の車に乗り込んで商店街に買い物に行く。日常の買い物や用事を済ませられるので、運転免許証を返納しても困らない。

取組 商店街で買い物をする | 運転免許証を返納する
買物支援ツアーのサービス化



退職後、学校に通って学び直す暮らし

地域の小中学校で、教養を深めたい人や資格取得を目指す大人のための講座が開かれ、多くの中高年が通う。子どもたちと一緒に学び、交流できる講座もある。

取組 いつでも学び直す
講座の開催



町内会や小さなコミュニティに参加する暮らし

市内のどの地区でも住民どうしの交流が盛ん。地域活動においては子どもたち、親世代、高齢者がそれぞれの役割を果たし、和やかに暮らしやすい地域づくりに貢献している。

取組 地域活動を活発に行う
町内会活動の支援



バスで行く「清掃ツアー」に参加する暮らし

市内の観光スポットや公園などをバスで巡って清掃するボランティア活動が盛ん。実際にはゴミはあまりないが、参加者にとっては健康増進だけでなく地域の魅力の再発見につながる。

取組 ボランティア活動に参加する | 地域の魅力を感じる
募集体制の確立



経験を生かして 「ちょこボラ」で活躍する暮らし

誰でもできる範囲で行うボランティア「ちょこっとボランティア」に参加できる場が豊富にある。みんなが経験や特技を生かせることから、地域の役に立っていると思えると暮らしに張り合いが出る。

取組 公園の清掃や観光ガイドのボランティアに参加
ボランティアの活用



塩籠のソルフードを伝える暮らし

塩籠汁や焼きガキ、地元産かまぼこを使ったおでんなどが市民のソルフードとして定着した。家庭でも地域の集まりでも食べる機会が多く、大人も子どもも大喜びする。

取組 塩籠の味を家庭で食べる
塩籠の食文化の再認識



岸壁で釣りをしながら のんびり海を眺める暮らし

天気の良い日は岸壁で釣りをする人の姿が多い。釣った魚は料理して食べる。釣れなくても、穏やかな海をのんびり眺めているだけで最高のリフレッシュになる。

取組 釣りに行く
海を眺める



音楽イベントに出演する暮らし

「GAMA ROCK FESJ」は秋の音楽イベントとして定着した。ほかにも駅前広場や市内のホールなどで音楽イベントが毎月のように開催され、多くの市民が出演者や観客として楽しむ。

取組 楽器や歌に挑戦する | イベントを開催しやすい環境整備
イベントに参加する



自分の作品がまちなかに展示される暮らし

市内で活動するアーティストやアートを学ぶ学生の作品が、公共施設、公園、広場などに展示されている。ところどころに有名作家の作品も置かれ、まち全体が美術館のようになった。

取組 絵や彫刻に挑戦する
公共の場に作品を展示



健康についての勉強会で情報交換する暮らし

近所のコミュニティスペースで定期的に健康や病気についての勉強会が開かれている。専門家による助言や参加者同士の情報交換を通して、住民の健康意識は向上した。

取組 健康について学ぶ | 情報交換する勉強会の開催



松尾芭蕉の足跡をたどる暮らし

松尾芭蕉が歩いた道を散策するウォーキングツアーに参加する。インストラクターによる解説を聞きながら歩くことで、多賀城・松島など周辺地域との文化的つながりを感じられる。

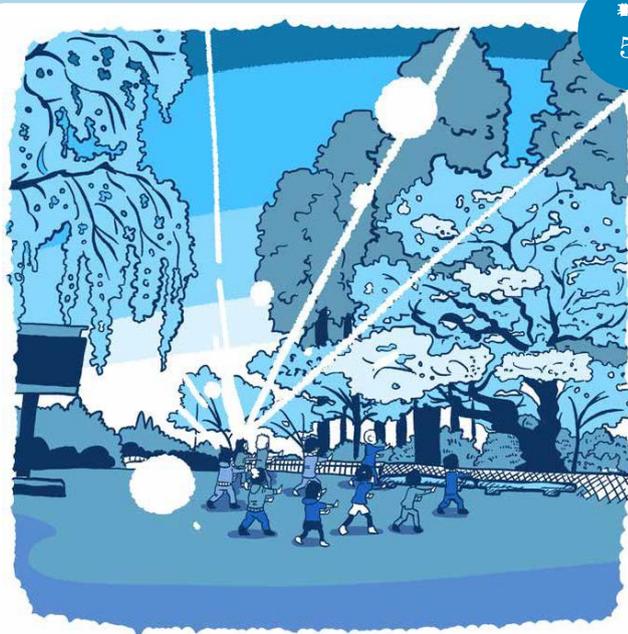
取組 地域を歩く
サークル活動の支援



まちを歩く高齢者を地域で見守る暮らし

地域を歩く高齢者を近所の人が見守っている。危険がないように声をかけ、必要に応じて家族や施設に連絡する。近くの交番の巡査も地域の人の様子を把握し、頻繁に見回っている。

取組 高齢者、障がい者の安全を見守る
警察と地域の連携、情報共有



神社や公園でヨガや太極拳を楽しむ暮らし

商店街に近い神社の境内や住宅地の公園で太極拳の稽古をする。年齢も性別も体格もさまざまな参加者が、ゆったりとした動きの中で自分の心身と向き合う。別の日にはヨガ愛好者のグループが活動している。

取組 太極拳を楽しむ
互いのペースを尊重する



働く人の健康を大事にする暮らし

多くの事業者の間に、従業員が長く元気に働けることが自社の利益につながるという意識が浸透している。そのため従業員の心身にかかる負担を軽減する職場環境が整えられている。

取組

心身への負担の少ない職場環境を整える
職場環境改善の啓蒙



まちの未来を語り合う暮らし

高齢者と若者が一緒になって理想のまちづくりを語り合う場がある。誰もが「地域の子どもたちにどんな塩竈を残すのか」を真剣に考え、意見を交わす。議論の内容は市政に生かされる。

取組

まちの未来を語り合う
市政への反映方法を検討



街角のライブパフォーマンスに足を止める暮らし

駅前広場や公園などでは歌や楽器演奏、大道芸などのパフォーマンスが日常的に繰り広げられ、街に笑顔と活気をもたらす。塩竈のストリートは多くの有名アーティストを輩出している。

取組

路上でパフォーマンスする
路上でパフォーマンスをしやすい環境づくり



防災訓練で地域住民の状況を共有する暮らし

年に2回、町内会単位で防災訓練が開催され、ほとんどの住民が参加する。訓練後にはみんなで鍋や豚汁を食べながら、災害時に支援が必要な住民の情報などを共有する。

取組

防災訓練を実施する | 訓練後に鍋や豚汁を食べる
防災について家族やご近所と話し合う



土地の文化をアートで表現する暮らし

地域に根付いてきた生業や暮らしを掘り下げ、絵画作品や楽曲で表現し続けるアーティストがいる。作品は地域住民らにとって、土地の文化を捉え直す機会となる。

取組

地域で活動するアーティストの作品を鑑賞する
作家活動の支援



古今東西のアート作品に触れる暮らし

美術館やギャラリーでは国内外の有名作家や地元の若手などさまざまな芸術家の作品に触れることができる。劇場では演劇や人形劇、神楽などが定期的上演され、舞台アートの世界を楽しめる。

取組

アート作品・表現を鑑賞する | 専門家の解説を聞く
作品展示活動に対する支援



地域の魅力を撮影して発信する暮らし

市内在住のカメラマンが地域の祭りや名所、特産品、話題の料理やスイーツなどを撮影し、市内外に発信している。地域の魅力を撮影した写真コンテストも毎年開催されている。

取組

地域の魅力を撮影する
写真コンテストを開催



毎週開かれる市に手作り品を持ち寄る暮らし

地域の広場でフリーマーケット形式の市が毎週開かれ、住民らが手作りの食品や小物などを販売する。物々交換での取引も盛ん。楽器演奏の指導などサービスを売る人もいる。

取組

売れるものを考える
市の開催



コミュニティFMで地域情報を得る暮らし

コミュニティFMでは日々、生活に役立つ地域情報が流れている。投稿やリクエストを通じたラジオ上での交流もさかん。災害時の情報源としても市民の信頼が厚い。インターネット経由で聴く人も多い。

取組 ラジオを聴く | ラジオ番組に投稿する
災害時の各メディアの役割の確認 | インターネットで聴く方法の周知



趣味・特技を発表し合う暮らし

市の芸術文化祭や町内会単位の展覧会、発表会など、活動の成果を発表する場が多くある。人に見られるという刺激は、活動を続ける上での意欲につながる。

取組 趣味・特技に熱中する
発表の場を設ける



活気に満ちあふれた 塩竈の様子を後世に伝える暮らし

江戸時代に仙台藩の庇護を受け門前町や花街、流通拠点として賑わった歴史は郷土史家らによって詳らかになり、書物や芸術作品として残され、地域住民らにも知られるようになった。

取組 地域の歴史を研究する
書物や芸術作品で表現する



オシャレして街に出かける暮らし

年齢を問わずおしゃれを楽しむ人が多く、みんな自信に満ちた姿でカッコよく歩く。学生の間にはデートの服装を祖母に選んでもらうとうまくいくという都市伝説が生まれた。

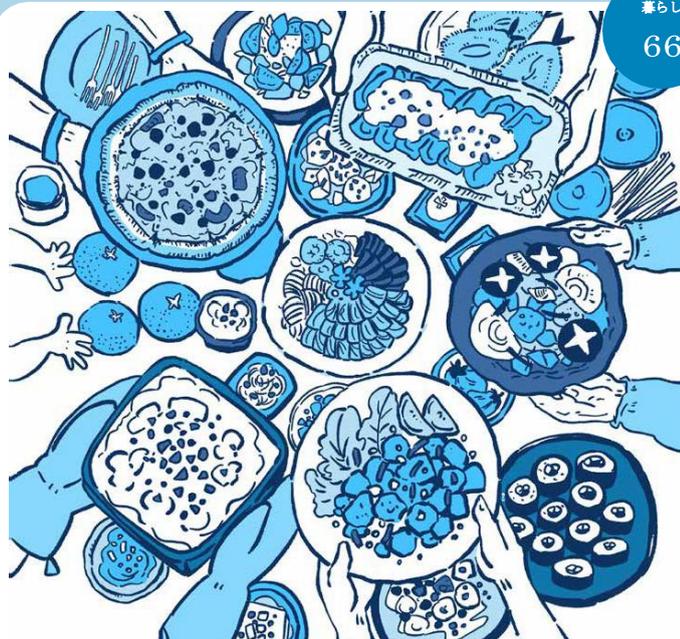
取組 おしゃれを楽しむ
選び抜いた品物が並ぶセレクトショップがある



点在する 「新旧ランドマーク」に親しむ暮らし

寺社、碑、老舗などの歴史的な建造物と、吾番館やエスパのような近代的で機能的な建物が調和したまち並みは、古いものと新しいものを柔軟に取り入れるこのまちの文化を象徴している。

取組 古い建物にまつわる歴史を学ぶ
景観を重視した都市計画



地元産食材を使った 郷土料理が食卓に並ぶ暮らし

日々の食卓には地場産の魚介や野菜などを使った料理が並び、老舗酒蔵の地酒で晩酌をする。ご近所の集まりで「晩のおかず」を持ち寄る機会が多く、人気のおかずが郷土料理として定着した。

取組 地場産の食材を使って料理する | 晩のおかずを持ち寄る
一次産業の振興



かまぼこ作りを通して 魚や水産業について学ぶ暮らし

小中学校では魚市場に水揚げされる魚を使ってかまぼこを作る体験学習が定番。漁師や水産加工業者、研究施設の職員らが講師となり、魚のさばき方、調理法のほか、海洋環境や水産資源の現状について学ぶ。

取組 魚をさばいてかまぼこを作る
漁師や地元業者、研究施設と学校の連携



塩竈で水揚げされた 魚介を仲卸市場で選ぶ暮らし

魚市場にはマグロ以外にもさまざまな魚介が揚がる。仲卸市場にはそれらの魚介のほか青果、精肉などが並び、仲卸市場での買い物の醍醐味は、食材の旬やおいしい食べ方を店の人に聞けること。

取組 仲卸市場に買い物に行く
仲卸市場のサービスの充実



障がいのある人がゆっくり安全に道を歩く暮らし

市内には、段差のない歩道や点字ブロックや音声案内も整備されており、高齢者や障がいのある人も歩きやすい。市民には、困っている人をサポートする意識が根づいている。

取組 障がいがあっても出歩く | 公共交通の充実
市内環境のユニバーサルデザイン化



人々が行き交う駅前で購入や食事を楽しむ暮らし

駅前には地元商品を扱う店や塩籠の食材を使った食べ物を提供する店が並び、いつも多くの人が行き交う。店と客とのコミュニケーションの中で新たな商品や料理が生まれることも多い。

取組 鉄道を利用し、駅周辺を歩く
地元商品を買う、食べる



季節の地酒と肴を楽しむ暮らし

市内の酒蔵が季節ごとに発売する酒は塩籠の風物詩のひとつとなり、毎年、辛党の市民が待ちわびる。飲食店では、地元の食材を使い、地酒に合わせた季節の料理を提供している。

取組 季節ごとの地酒を味わう
地酒に合う料理の研究



地図や地名の歴史を学び災害に備える暮らし

古地図に描かれた古い海岸線や地名に残るヒントをもとに、地区ごとの災害リスクについて学ぶ。知見は「津波防災センター」に集約されるとともに市民に共有され、地域社会の防災力が高まった。

取組 勉強会を開催する | 地域の災害リスクを知る
津波防災センターの活用



地元で働きながら子育てをする暮らし

地域の保育施設には十分な定員数が用意されている。市内や近隣にはさまざまな職種があり、親たちは働きながら子育てしやすい。通勤に長い時間を奪われないので子どもとゆっくり過ごす時間も確保できる。

取組 地元で働き、子育てをする | 地元で保育士を目指す
保育環境の充実



子どもたちが塩竈の魅力を人に伝える暮らし

塩竈の歴史・文化に関心を持って勉強会などで学ぶ市民が多く、子どもたちも学校や地域でまちの魅力を知り人に伝える学習活動をしている。観光ガイドのボランティアに参加する中高生が多い。

取組 塩竈の歴史・文化を学ぶ | 人に伝える練習をする
ボランティアの育成



道や橋を名前でよぶ暮らし

市内の多くの道や歩道橋には「中藤通り」「楓坂」「かっぱ橋」など地域住民がつけた名前がある。住民どうしの会話で愛着をもって用いられるうちに、行政上の愛称としても定着した。

取組 身近な道や橋の愛称を考える



文化財を舞台に文化を紡ぐ暮らし

勝面楼、旧えびや旅館、杉村悳美術館など、地域の歴史を物語る建築物は市民の手によって大切に保存されている。人々が学び、交流する場として活用され、新たな文化が紡がれている。

取組 文化財について学ぶ
古い建築物の保存・活用法の検討



ストリートでダンスの技を磨き合う暮らし

市内の路上ではさまざまなレベルのダンサーがパフォーマンスや練習をする姿が見られる。互いに技を見せ合ったり経験者が初心者にアドバイスしたりするなど、ダンサー同士の交流も盛ん。

取組

屋外でダンスの練習をする
ダンス可能な場所の確保



近所のミニシアターで 気軽に名画を楽しむ暮らし

小規模な映画館が点在し、気軽に映画を楽しめる。名画座、自主制作映画専門、ドキュメンタリー専門など館によってコンセプトが異なり、大手シアターでは扱われない作品が上映されることが多い。

取組

映画を鑑賞する
映画を上映する



勉強を口実に子どもたちが集まる暮らし

放課後や休日、集会所や児童館に子どもたちが集まって教科書や参考書・図鑑を広げている。教師経験のある住民や近所の大学生がボランティアで勉強を教えているが、いつも友人とひそひそ話をしている子もいる。

取組

子どもたちが世代を超えて集まる
子どもたちが集まれる場をつくる



図書館の学習スペースで 集中して勉強する暮らし

図書館の自習コーナーやコミュニティセンターの学習室など、中高生が勉強に集中できる場所がある。努力して目標を達成した先輩の姿を見た学生らは「勉強は自分から進んでするもの」ということを学ぶ。

取組

自習コーナーで集中して勉強する
中高生が勉強できる場をつくる



勤めながら小商いを始める暮らし

会社に勤めながら、農林漁業や作家活動、加工食品製造など趣味や特技を生かせる分野で「小商い」を始め、副収入を得る。副業が軌道に乗り、会社を辞めて本業にする人も多い。

取組 副業をはじめると
副業できる就労環境づくり



シニア世代が短時間のアルバイトで小遣いを稼ぐ暮らし

体に負担の少ない短時間の業務をシニア世代に割り振るしくみがあり、多くの人が就業して社会参加しながら小遣いを稼ぐ。生活にハリが出て元気な高齢者が多くなり、勤労世代の負担が軽くなる。

取組 短時間アルバイトで小遣いを稼ぐ
希望者に仕事を割り振るシステムの確立



丘の上の空き家を 改装したカフェで談笑する暮らし

海が見える丘の上の空き家を地域のみんなで改装してカフェを作った。コーヒーやケーキのほかお茶や和菓子もあり、日々、さまざまな世代の住民が坂を登って集まってきては談笑している。

取組 坂を登ってカフェに行く | 空き家を活用してカフェを作る
公益的な要素をもつ飲食店への支援



空き店舗で健康麻雀をしながら笑い合う暮らし

「シャッター通りからウェルネスの聖地へ」を合言葉に空き店舗の活用が進められた。健康麻雀や囲碁、将棋などを楽しめるスペースもでき、商店街がにぎやかになるとともに新たな雇用も生まれた。

取組 健康麻雀をしにまちに出る | 空き店舗の活用
交流スペースの開設、運営



子どもたちが外国人と交流する暮らし

子どもたちにとって言語や生活様式の異なる人が身近にいることは当たり前のこととなった。日常的な交流を通し、互いの文化を尊重して受け入れる姿勢が自然に身についている。

取組 外国人住民との交流
学校で多文化共生について学ぶ



ムスリムの友人とレストランで食事する暮らし

市内には多くの外国人が住んでいるため、多くの飲食店がさまざまな宗教や食文化に対応したメニューを用意している。アレルギーのある人でも食べられる料理を提供する店も多い。

取組 外国人と一緒に食事をする
多文化共生への理解促進



船が身近にある暮らし

浦戸や松島、宮戸島などへの移動手段として、日常的に船を利用する。松島湾には多くの釣り船が浮かぶ。小型船のシェアリングがさかんになり、自分で操船する人も増えた。

取組 船でかける
船で釣りに行く



浦戸で休日を過ごす暮らし

休日は浦戸の島を訪れ、ツバキの遊歩道や菜の花畑を歩き、丘の上から海を眺める。お昼は島の民宿や食堂で海苔や牡蠣やシラウオなどを使った料理を食べる。宿泊して島を堪能する人も多い。

取組 気軽に船で浦戸に行く
浦戸産食材を浦戸で食べる



浦戸で白菜を育てる暮らし

浦戸の住民が浦戸産の種から育てる白菜は「浦戸白菜」として仙台白菜とは別の新たなブランドになった。市内の子どもたちが畑に通って栽培、採種を体験し、収穫した白菜は給食で味わう。

取組

浦戸で白菜を育てる
流通・販売の支援

商品化・ブランド化の支援
浦戸の白菜の種の管理



海で遊ぶ暮らし

市内外からたくさんの方が訪れ、釣り、海水浴、シーカヤックやSUP、海辺でのバーベキューなど、海での遊びを楽しむ。海辺が活性化するにつれ、多くの雇用も生まれた。

取組

海で遊ぶ
遊べる海辺の整備

海辺で働く



近くにかかりつけのお医者さんがいる暮らし

子どもが急に熱を出したので近くの医院に駆け込んだ。生まれた時から診てもらっているので安心して受診できた。祖父母は定期的な往診を受けていて、総合病院への入院を手配してもらったこともある。

取組

かかりつけ医を受診する
往診できる地域医療体制の確立



子どもたちの通学を地域で見守る暮らし

毎朝夕、通学中の子どもたちと地域住民との挨拶の声が聞こえる。通学路を走る車は常に子どもたちに注意して徐行している。夕方、家々の門灯や玄関灯は早めに点灯される。

取組

地域の子を地域で見守る
ドライバーのマナー改善

子育て世帯の定住促進
公共交通の利用促進



牡蠣殻を用いた製品を生産する暮らし

牡蠣殻を活用して建築資材や土壌改良剤を作る事業が地場産業として発展し、雇用を生んだ。市内の農地では牡蠣殻の土壌改良剤が普及し、おいしい野菜がとれるようになった。

取組

牡蠣殻を原料に工業製品を作る
牡蠣殻を農業に活用する



図書館で読書会に参加する暮らし

図書館で司書の助言を受けながらさまざまな書物に触れ、思考を深める。時々開催される読書会に参加すると、他者の視点を感じたり新たな分野の面白さに気づいたり刺激的な経験ができる。

取組

図書館を積極的に利用する | 図書館で司書と話す
子どもたちの読書を奨励



地域に花を植えて交流する暮らし

子どもたちが学校の授業で種をまいて苗をつくり、地域のシニア世代と協力して歩道のプランターや公園の花壇に植えた。作業を通して世代を超えた交流が生まれている。毎年、四季の花が地域を彩る。

取組

地域住民が子どもたちに花の植え方を教える
花壇の整備



地元産食材を用いて 「作って食べる」を楽しむ暮らし

日常的に料理をする人が多くなり、地元食材に対する関心が高まった。牡蠣やホヤの殻をむく、めかぶを湯通しして刻むなどの下処理は、小さい頃から経験する機会が多く、誰もが自分でできる。

取組

料理をする | 牡蠣の殻むきを練習する
家族で食べる



給食で地元の食材を日常的に味わう暮らし

各校で作られる給食には塩竈産の魚介や野菜、塩・味噌・醤油などがふんだんに使われ、郷土学習の生きた教材になっている。生産者にとっては地域の子どもたちを育む営みが生きがいとなる。

取組 給食に地元食材を使う
食材の地域内流通の仕組みを検討



徒歩とバスと電車で移動する暮らし

バスの本数が多く、市内や近隣市町への用事はバスと徒歩で済ませられる。市内に4つある駅は、市外へ出かける市民の足としてよく利用されている。自家用車を使う人が減って道路の混雑が解消された。

取組 公共交通の利用促進 | 駅周辺の環境整備
バス路線の充実、便数の増加 | 高齢者のバス利用への支援



大人と中高生が 同じテーマで意見を交わし合う暮らし

カフェやコミュニティスペースでトークイベントが開催される。毎回テーマを決め、大人も中高生もそれぞれの視点で考えを述べ合う。会場は和やかな雰囲気、イベント終了後は雑談に花が咲く。

取組 トークイベントに参加する
大人と中高生が対話する



子どもたちが大人の知らない世界をもつ暮らし

近所の子どもたちが、子どもだけの秘密の国を作って遊んでいる。小さい子をみんなで守ることは暗黙の掟。大人たちは子どもたちの世界を邪魔しないようにさりげなく見守っている。

取組 子どもたちだけで遊ぶ
大人はそっと見守る